

8. 蚕飼育の大阪での広がり

蚕飼育研究会 田中 尚子

1. 子どもたちへのメッセージ

【蚕ガの幼虫】は、サナギになる前に、口から糸を出して、自分の体のまわりに繭（まゆ）を作ります。その繭を煮て絹糸を取り、それを織って布を作ります。絹の布は1本1本の繊維が長いので肌への刺激が少なく、肌の敏感な人の下着や人工血管、ワクチンの研究など、医療分野にも活用されています。



2. 【蚕ガの幼虫】を観察しよう

今年も【蚕ガの幼虫】を観察します。蚕が桑の葉を食べるようすを見てください。音も聞いてください。ブースに展示する幼虫は、丈夫な品種を用意してあるので、てのひらに乗せて観察できます。そのほかにも、繭の中のサナギを外に出して観察できます。



3. 大阪での蚕飼育

60年前、天王寺区の学校では、近所の家で桑の葉をもらって蚕を育てていました。桑の木は高潮に強く水不足にも強いので30年ぐらい前にはまだ上町台地にたくさんの木が残っていました。淀川沿いや大和川沿いには、今もたくさんの桑の木が自生しています。近年、蚕の繭の科学的価値が見直され、桑の木を植えて蚕を飼育する人や学校が少しずつ増えてきています。

4. 研究中的こと

蚕を人工餌で育てるときに、最後の脱皮の後、普通は丸々と太ってから飴色になって糸を吐くのですが、時々細いままに飴色になって死んでしまう蚕がいることが長年の疑問でした。今年、新しい飼育箱で育てたら全ての蚕が丸々と太ってきれいな繭を作りました。その後の蚕も、新しい箱で育てて丸々と太ってから再利用の飼育箱に移すと一斉に繭になりました。狭すぎるかと心配した箱の中でも、新しい箱だと丸々と太りました。これらのことから、再利用の箱に残った繭の糸の成分が、蚕が食べるのをやめる合図になっているのではないかと考えています。

5. 桑の木が切られないように

蚕を飼育する人が増えて、桑の苗木を植える人も増えてきましたが、その木が蚕をたくさん飼育できるぐらい大きくなるのには長い時間がかかります。私たちも、たくさん挿し木をしましたが、まだまだ足りません。蚕の餌になる桑の木を見つけたら、切られないように協力してください。

6. 問い合わせ先

元、大阪市立小学校教諭 田中 尚子（ひさこ）

hisako@oct.zaq.ne.jp

090-8575-3156

6. 参考になる資料

科学のアルバム「カイコまゆからまゆまで」 岸田 功 あかね書房
パソコン検索【カイコってすごい虫】国立研究開発法人生物資源研究所・・・歴史的な背景から最新研究まで詳しく書かれています。